



# しえん 支援センターNews

おとくに えんちいきせいかつしえん  
乙訓ひまわり園地域生活支援センター  
はっこうび ねん がつ にち  
発行日 2020年10月25日  
へんしゅう みずたに ゆい  
編集：水谷 友依

れいわ ねん がつ  
令和2年10月



すこ ずつ きおん が 下がり 秋らしい 気候 になって きました。日中は 暖かくても 朝晩は 冷え、一日の 温度差が 最も 高い 季節 ではない でしょうか。衣服等 で 調節 を し 体調 を 崩され ない よう お気 を 付け 下さい。  
はやい もので 2020年 も あと 2ヶ月 余り となりました。今年 は コロナ 感染症 から 始まり 心の 休まら ない 年 となっ て しま いました。新 しい 年 を 迎える ころ に は 少 しく 状 況 が 落ち 着 いて いる こと を 願 っ ば かり です。(水谷)

## 【グループホーム】

9月から、グループホーム事業の事務所を  
ジョイフル東ノ口内に移転しました。

支援センター全体の職員数が増えて事務  
スペースが手狭になってきていたことと、  
今後グループホーム事業のさらなる拡充が  
期待されていることから、新たに別の事務  
拠点を構え、グループホーム事業全体の  
体力増強を図る狙いです。

支援センターとは違い、日常的に女性  
入居者の住まいとして支援をしている場  
でもありますので、ご訪問の際にはあらかじめ  
ご連絡をいただきますよう、よろしくお願  
いいたします。(内田)



©新事務所東ノ口1階の南側です

## 【短期入所】

短期入所では毎月会議と研修として、  
学習会を行っています。

先日、理学療法士の片桐氏を講師に迎  
え、ボディーメカニクス(人間の運動機能  
である骨・関節・筋肉等の相互関係の  
総称、あるいは力学的相互関係を活用し  
た技術)の原則を学びました。

- ・支持基底面積を広くする
- ・重心の位置を低くし移動をスムーズにする。
- ・重心を近づける。
- ・この原理を使う。
- ・身体を小さくまとめる。

などのレクチャーを頂き、実際に単椅子から  
ベッドへの移乗、またベッドから単椅子への  
移乗を職員が行い、アドバイスを頂きました。  
介助技術は日々進歩しています。より  
安全な介助を目指して、今後もこのような  
講習会を行っています。(三宅)

## 【サポートステーション】

サポートステーションでは月に一回会議を  
行っております。

支援について気になる事、必要なことの  
共有の場ではありますが、毎回同じ内容の  
話をするだけでは思い色々なことに挑戦  
しています。特にマンツーマンで支援を行な  
うガイドヘルプの時に、ヘルパーが熱中症  
になったら、利用者さんが電車内で発作をし  
てしまったら等、職員とヘルパーがロールプ  
レイをして気になった事を振り返る場にもし  
ています。

10月はロールプレイをいったん中断。ヘル  
パーさんも行った方が少ない第3乙訓ひまわ  
り園の見学とそこで会議を行いました。  
必要なことを真剣に話し合いますが、時に  
は話し合う場をかえたりしながら、楽しく  
支援に向き合ってもらえるよう取り組んでい  
ます。(八木)



## 【訓練報告】

支援センターでは、ミーティング時に防災訓練  
をしています。  
上半期は、風水害(台風・浸水・大雨)、救命救急・発作対応、行方不明  
捜索の訓練を実施しました。

風水害訓練では、大雨の場合、河川の氾濫情報、各拠点のハザード  
マップ、避難場所などの情報と確認。避難できない場合に垂直避難する  
などの確認をしました。電気が止まった際に、ガスボンベを動力として動  
かす発電機を実際に動かす訓練、非常時のグッズ、食料の確認も行い  
ました。

救命訓練では模型を使って、心臓マッサージ、AEDの訓練を行  
いました。心臓マッサージでは成人と子どもでは力の入れ方が違  
とも学びました。

行方不明捜索訓練では捜査本部を立ち上げ、情報を収集、それ  
ぞれ職員に連絡して、自動車、バイク、自転車を使用してひまわり  
園外にでて捜索訓練をしました。

下半期も様々な訓練を行っています。



行方不明者  
情報をまと  
めています。

情報の確認。緊張感  
のある訓練です。





## 《研修報告》

10月7～8日、14～15日の計4日間に渡り強度行動障がい支援者養成研修を受講してきました。「強度行動障害」は、本人がもともと持っている障がいではなく、本人の特性と周りの環境とのミスマッチや不適切な支援の積み重ねによって徐々に作られたり抑えていたものが、あるとき一度に噴き出して現れる状態であるとされています。行動障がいのある人は対応が難しいと言われることがありますが、困っているのは支援する人よりも支援を受ける本人である、と研修で繰り返し言われていました。行動障がいのある人の行動・言動は周囲に私は困っています、というメッセージであるということです。私たち支援者はそのメッセージを受け止め、その人の行動の理由を考へることが求められます。

目に見える行動だけではなく、その行動の背景には何が隠されているのかを考へることが重要です。一人ひとり支援方法は異なるものの、行動障がいのある人に対しては視覚的な支援や刺激の少ない環境を整えることが有効な支援の一つであると学びました。今回の研修で学んだことを活かし、また他の職員に共有し、行動障がいのある人の支援についての知識・理解を深めていきたいと思ひます。(水谷)



## <支援センターより>

いつも地域生活支援センターをご利用頂きましてありがとうございます。

支援依頼決定通知書が届きましたら、支援内容を必ず確認頂きますようお願いいたします。

支援依頼決定通知書の内容が確定の支援です。ご依頼いただいた支援が調整できていない場合がありますので必ずご確認ください。

次月の支援依頼は1日の午前10時より受付致します。

1日が日曜日の場合は、翌日の月曜日からの受付となります。メールでの受付は24時間しております。

### ◎年末年始の予定について

#### 【短期入所事業所】

12月26日(土)～1月3日(日)は、短期入所、日中一時の受け入れはありません。入浴のみ支援を行います。

#### 【サポートステーション】

12月29日(火)～1月3日(日)の間は、ホームヘルプのみ支援を行います。

#### 【グループホーム】

担当者よりお知らせいたします。



## <今年度の地域交流会について>

例年2月に開催しておりました地域交流会ですが、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で中止とさせていただきます。

今年度は地域交流会に代わる行事といたしまして、支援センター職員、サポーター、ヘルパーで地域の清掃活動に取り組みます。形は変わってしまいますが、地域交流会の目的と同様に障がいのある方の暮らしや支援センターの役割を知ってもらえるよう取り組みたいと思ひます。



## 編集後記

いつも支援センターの運営にご協力いただきありがとうございます。コロナと共存する生活が続き、対策をしながらではありますが普段の生活が戻りつつあります。支援センターの利用を自粛されていた方達も再開され利用も増えてきました。まだまだコロナ禍ではありますが、生活は休むことなく続いていきます。生活を支える支援センターとしては、普段の支援や、グループホームや短期入所などの新規利用者や緊急時の受け入れを続けています。時折、現場職員の応援程度ではありますが支援に入る事があります。私自身が現場職員として関わっていたころと変わらず、元気に過ごされている様子や、安心して支援者に自分の想いを伝えてもらえる様子を見てうれしく感じ、また反対に知らない事も増えてきているように感じ寂しく思う事もできました。私が入社した頃に比べると法人職員は倍以上に増えました。利用者の様子を見て、支援者が増え育ち、支援力が上がっている証拠なのだと感じるこの頃です。次の世代にバトンを渡しながらも、手はつないだままで。時々支援現場にも顔を出しながら。もっともっと支援の輪を広げていきたいと思ひます。

センター長 河原 絵理

社会福祉法人 向陵会  
基本理念「共生」

すべての利用者とその家族が  
地域の中でいきいきと  
生活することを願ひ、  
地域とともに「共生」を目指します。

